古賀花見海岸

沖に対馬暖流　正面に相島　白砂青松

古賀花見海岸に出ると、180度視界がひろがっています。南側に新宮磯崎、能古、そのむこうに糸島・可也山、志賀島、玄界島、正面に相島、右手にぼうと小呂島、北側に楯崎、東郷公園と広がっています。

「玄界灘は今日も灰色の靄（もや）に包まれている。浅いU字形の海岸線に縁ちどられた湾内にはいくつも小さい島が散らばり、その淡い緑の影が、わずかに風景をやわらげているが、海面は棘棘（とげとげ）しく黒ずみ、吹き上げてくる風はまだ先日からの寒波の名残りを留めているようだ。古賀町、八須田病院の裏手は、厚い松林がつきると、尖った石ころを積み上げた低い防波堤の続く海岸に出る。一カ所、小さな岬のように小高く突き出た場所があり、その上には戦時中の砲台の跡が残っている」（暗い玄界灘に、夏樹静子）、玄界灘と古賀海岸を描写していますが推理小説で事件が背景にあるだけに暗い表現となっています。戦争末期、本土決戦に備え、北は神湊から南は奈多まで海岸に防衛線が構築されています。その名残りが松林の中に近年まで残っていたのです。

▲ 花見浜に出ると正面に相島

▲ 松　林

▲ 防風・防砂柵

▲ 鯨の潜堤

古賀市の海岸線は新宮境から福津市の刈目川まで全長約3.7km、新宮境から花鶴川左岸まで、ほぼ自然海となっています。花鶴川右岸から中川の“しおさい橋”の間の沖に、鯨の標柱があります。その間の海面下に隠れて187.5mが人工リーフとなって、福岡県自慢の環境にやさしい「鯨の潜堤」です。

花見松原（クロマツ）は、筑前八松原の一つで、黒田藩時代から植林が行われていました。松は防風、防砂林として大切で、その松を保護するため海辺に沿って、竹や間伐材を使って柵がつくられています。また松林の中は、小さな路が通り、朝夕ウォーキングを楽しむ人も多く。花鶴川河口に近いところに東屋（あずまや）があり、周辺にハマボウが生え、守る会によって植樹が行われています。東屋の中には大根川、花鶴川に因む空海、最澄の伝説が円形の台石に刻まれています。

▲ ハマボウ

▲ 海岸を歩く

冬は厳しい北西季節風が吹き、海は荒れますが、ソデイカやウスバハキが流れ寄り、海岸は賑います。春はワカメが流れ着くし、バカガイやコタマガイなど貝掘りする人も見られます。オサガメ、タイマイ、セグロウミヘビ、スナメリ、エチゼンクラゲ、ムラサキダコ、アオイガイなどやココヤシ、ニッパヤシの南方果実や種子も海流にのって漂着します。

【参考文献】
古賀市自然環境調査報告書　古賀市自然環境調査研究会. 2004
暗い玄界灘に　夏樹静子　ふるさと文学館. ぎょうせい1995